

第3回複合土砂災害に関する国際ワークショップが穂高砂防観測所にて開催

平成24年9月22日から24日、第3回複合土砂災害に関するワークショップが穂高砂防観測所において開催された。このワークショップは、平成22年のインドネシア・ジョクジャカルタ、平成23年の台湾・台南市で行われたワークショップに引き続くもので、台風や火山噴火による大規模土砂災害に関する研究が発表された。また、上高地での砂防施設の見学、平成23年の十津川流域における大規模土砂災害および貯水池における排砂バイパス施設について見学した。このワークショップは、インドネシア、台湾、日本の土砂災害の研究者からなるMSD（複合土砂災害）ネットワークの連携をより深めることも大きな目的であり、防災研究所特定研究集会も兼ねて、インドネシアから6人、台湾から5人、日本から9人の参加のもとに行われた。写真はワークショップの発表の様子と第1日目の懇親会でのMSDバンドによる音楽の演奏（M）と歌（S）、ダンス（D）で交流を深めている風景を写したものである。楽器もまさに”複合”であった。来年はインドネシアで開催予定である。（流域災害研究センター 藤田正治）



研究発表の風景

集合写真



MSDバンドの音楽（M）と歌（S）、ダンス（D）